

2013 02

チャイナ春季キャンプ



発行：FIWC 九州 チャイナキャンプ

目次

FIWC とは？	3
FIWC 九州について	4
チャイナキャンプについて	5
JIA について	5
ハンセン病を知ろう！	6
出発前ミーティング	7
日程	12
ハンチョン村について	14
中国人キャンパー紹介	19
ハンチョン村での活動	21
スーアン村について	24
桂林観光	29
JIA キャンパーたちとのミーティング	32
治安について	39
保健	40
会計	41
キャンプを振り返って	42
キャンパー紹介	43
感想	44

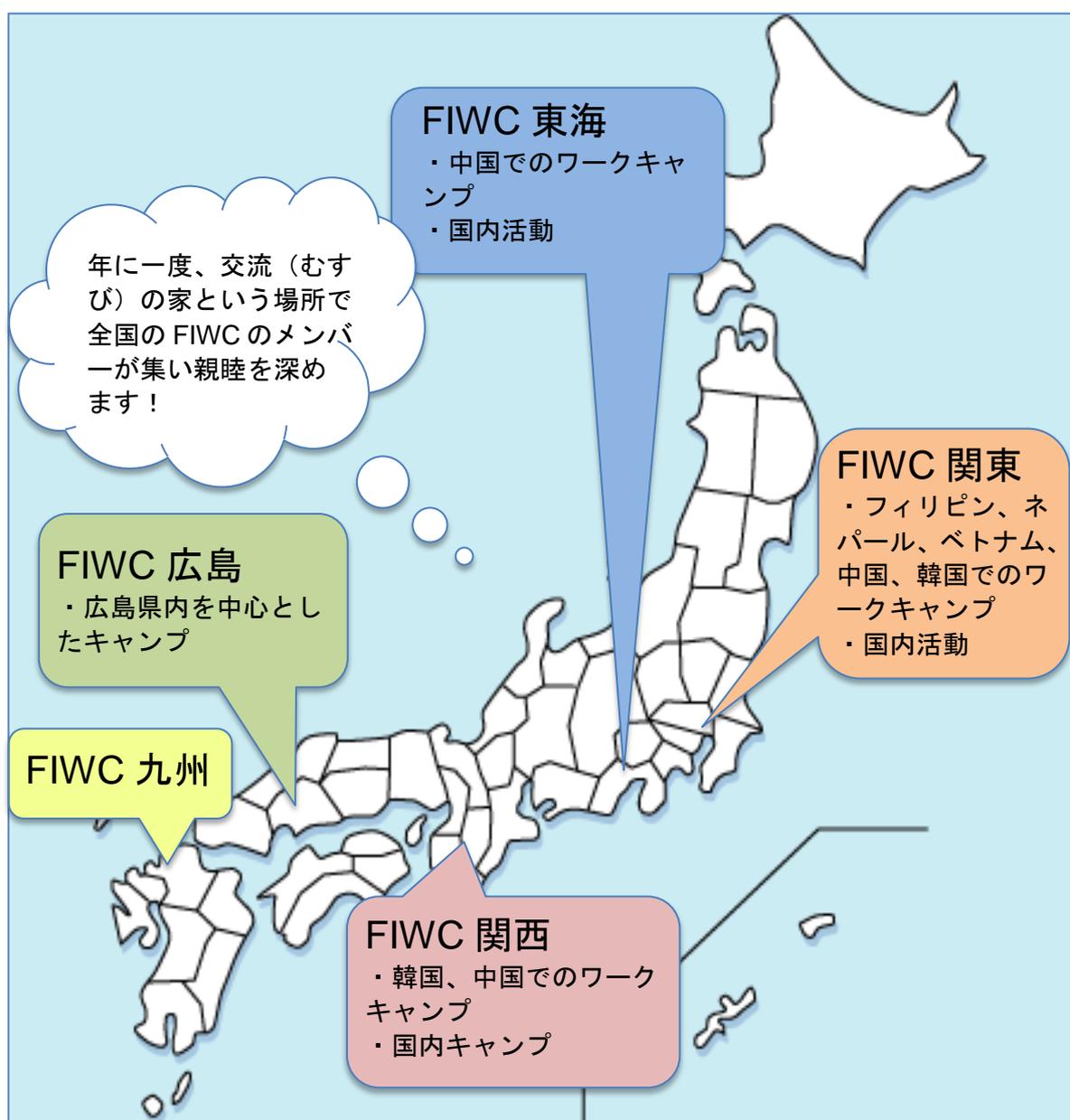


FIWC とは？

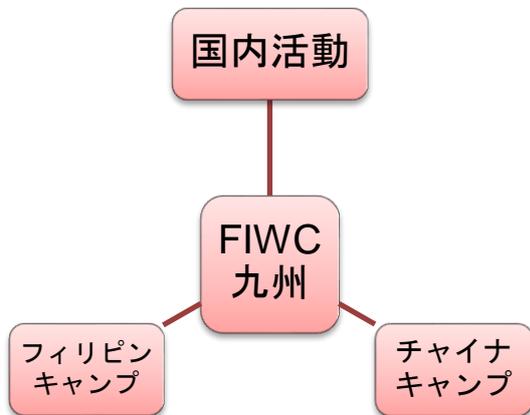
FIWC とは、フレンズ国際ワークキャンプ（Friends International Work Camp）の略称です。FIWC は一般市民、学生による非政府組織（NGO）です。いかなる政治・宗教団体とも一切関係ありません。

FIWC は現在、関東、東海、関西、広島、九州の委員会があり、本部支部の関係はなく、すべてが兄弟委員会でそれぞれの責任で活動を展開しています。

簡単に言えば、学生が自ら考え、行動を起こすことを理念に活動している団体です。



FIWC 九州について



FIWC 九州の活動は左記の3つの活動で成り立っています。
キャンプとしてはフィリピン、中国キャンプの2つがあり、それぞれの国でワークキャンプを行います。ワークキャンプとは、インフラ整備を中心としたボランティアのことで、現地の人と協力して行います。
キャンプの内容は毎年異なります。つまり毎年2回キャンプが行われますが、ひとつとして同じキャンプはないのです。

ここで、FIWC 九州の国内活動についてさらに説明をします。
国内活動では、耶馬溪での農業体験、学祭、FPといった活動があります。
どの活動も多く参加者を募り、海外キャンプとは違った方面か FIWC キャンプを支えています。
FPとは定期的に行っている勉強会で、個人が日頃考えていることを、みんなと討論しながら意見交換をする場です。



現在のFIWC九州のメンバーの出身校は九州大学、西南大学、福岡大学、福岡教育大学などです。このように九州のいろいろな大学の生徒が一緒になって何かを作り上げるといいですね！

チャイナキャンプについて

FIWC 九州のチャイナキャンプは、日中が協力することで運営されています。キャンプでは、JIA（「JIA とは」参照）の中国人学生と共にハンセン病快復村へ行き、2～3 週間村に滞在します。村人はかつてハンセン病を患っていましたが、今は完治しています。しかし、後遺症により周囲の人々から差別を受けることがあり、不便な生活を強いられています。では、私たちができることは何でしょうか？

- ◆ **建設ワーク**：道路の舗装など、村のインフラ整備を行います。
- ◆ **ハウスワーク**：後遺症のため困難な食事や洗濯など、日常生活の補助をします。
- ◆ **イベント**：村人と楽しい時間を共有するためのパーティーを開きます。

建設ワークだけでなく、村人との交流をはかり、心から楽しいと感じてもらえる時間を作ることも重要です。



JIA について

『JIA-家-ワークキャンプコーディネーションセンター』は、2004 年に原田燎太郎さん（たいらんさん）によって、中国広州に設立された学生中心の NGO 団体です。

活動の目的は、中国にワークキャンプを根付かせること、ワークキャンプの情報収集や共有を行うこと、個々のワークキャンプと世界各地の人や団体との繋がりを形成することなどです。

活動の主体は大学生であり、各地域に委員会が存在します。その中でも、私たちは桂林地区の学生と共に活動しています。



原田燎太郎さん

ハンセン病を知ろう！

ただ、知るのではなく、正しく知ることが大切です。難しいことを知る必要はありません。ハンセン病のエッセンスを教えます！

その1・・・ハンセン病は遺伝病ではなく、**感染症**である。

ハンセン病は遺伝病ではありません。したがって、親から子供に遺伝するというのは間違いです。この認識の間違いが、歴史的に大きな間違いを生んできました。ハンセン病患者は子供を産んではいけないという法律が制定され、多くの患者が断種手術を余儀なくされました。

その2・・・ハンセン病をもたらす菌は**非常に弱い**。

その1で言ったように、ハンセン病は感染症です。つまり、原理的には風邪と同じ仕組みで病気になります。しかもハンセン病をもたらすライ菌は非常に弱く、通常の健康的な人ばかりではありません。なぜなら、人は免疫といって、体の中に入ってくる病原菌を殺すバリアーのような機能を備えているからです。しかしこの免疫システムが弱い人が、ハンセン病に感染し、発症してしまうのです。

その3・・・みんな同じ人間である！

では、病的には風邪と同じ仕組みで発症するハンセン病が、なぜ差別の対象にされてきたのでしょうか。それは、発症したあとの後遺症に問題があります。ライ菌によって顔や手足の形が変形したり、神経系がおかされて感覚が麻痺したりします。それが原因で、ハンセン病患者は恐怖の対象とされ、ゆえに差別の対象とされてきたのです。しかしみんな同じ人間なのです。一緒に話したり、笑ったり、泣いたり... キャンプを通して、快復村の村人とコミュニケーションをとりながら、有意義な時間を過ごしましょう。

出発前ミーティング

●2013 年春キャンプの流れ

11 月

FI 九州メーリスにてキャンパー募集

12 月

キャンパー決定

12/25 第 1 回 MTG@あすみん

1 月

1/6 第 2 回 MTG@あすみん

1/8 第 3 回 MTG@びおと一ふ

1/15 第 4 回 MTG@びおと一ふ

1/20 第 5 回 MTG on Skype

1/29 第 6 回 MTG@ゆうしろう宅

2 月

2/10 第 7 回 MTG@びおと一ふ

2/16,17 国内合宿@那珂川

2/18~3/2 キャンプ

3 月

3/4 帰国後第 1 回 MTG@びおと一ふ

3/7 帰国後第 2 回 MTG@びおと一ふ

3/27 帰国後第 3 回 MTG@びおと一ふ

4 月

4/8 帰国後第 5 回 MTG@博多マック

4/17 報告書印刷@九大箱崎キャンパス

4/23 報告会リハーサル@びおと一ふ

4/27 春キャンプ報告会@びおと一ふ

●春キャンプ地・内容の決定まで

今回の春キャンプでは、出発前に全 7 回のミーティングを行いました。その中で特別に議論したことは、キャンプ地をどこにするかとキャンプの内容についてです。

結果としては、

①ハンチョン村への訪問

②スーアン村ワークキャンプの見学

と、2つの村を訪れたのですが、その決定までには多くの国内ミーティング、そして JIA の中国人キャンパーとの相談を重ねました。FIWC 側の考えや提案も、何度か変わりました。これからのキャンプについて、じっくりじっくり考えることができました。

以下に詳しく書いていますが、省いているところもあります。話が尖閣諸島問題とかに行っただけで、結局は問題なかったのここに書いちゃうと面倒だからね。気になる方はチャイナキャンプブログ (<http://fiwcqc.exblog.jp/>) に乗せているキャンプ MTG 議事録をご覧ください。

【下見ができない？】

今回のキャンプでまず問題になったのが、JIA 桂林地区代表の学生チーモンからの「今回ハンチョン村で夏キャンプに向けた下見をすることに賛成できない」との言葉でした。FIWC 九州のチャイナ春キャンプは毎回夏に向けての下見でしたし、ハンチョン村は FIWC 九州が 2011 年から続けてキャンプしている村で、今回もキャンプ地の候補として私たちが一番に挙げた村でした。それがどうして今回下見に賛成できないと言われたのか。

それに対する答えは、「建設ワークを行うワークキャンプに、もうハンチョン村はふさわしくない」というものでした。ハンチョン村の村人は現在ではわずか 5 人。他の村への転居を政府に薦められています。そしてこのような現在の状況を見て、JIA 桂林地区は現在(2013 年 1 月時点)ハンチョン村でのワークキャンプを打ち切る方向で考えているということだったのです。

このことから、FIWC 九州の今後のキャンプについての JIA 側の提案は 2 つ。

- ①ハンチョン村でキャンプを行うのなら、建設ワークではなく、村人たちの心を満たすような別の活動をするのが良い(＝ハウスワーク重視、もしくはハウスワークのみ)。
- ②建設ワークをしたいのであればハンチョン村以外で行うのが良い。→現在、中国人キャンパーが下見の準備をしている村あり、そこで日中共催キャンプをするのはどうか。しかしその村での下見(中国人キャンパーのみ)が終わっていないため、現段階(2013 年 1 月)でキャンプができるかどうか確実なことは言えない。

【村を変える？ 固定する？】

この 2 つの選択肢はそのまま、FIWC 九州のチャイナキャンプで訪れる村を変えるか固定するかという問題にもつながりました。

私たちは、JIA 代表の原田燎太郎さん(たいらんさん)からもメールをもらいました。内容は、現在の FIWC 九州チャイナキャンプが建設ワーク重視か、同じ村(ハンチョン)でキャンプをすること重視か、というものでした。

たいらんさん曰く、

- ・キャンプ地を毎回変えると、日中共催キャンプが中国の地で広がるというメリットがあるが、ひとつの団体(FIWC 九州)としてそれを行った場合キャンプそのものが消滅する可能性が高い→建設ワークを求め、毎回キャンプ地を変えていた FIWC 関東の中国キャンプは、ほぼ消滅。
- ・村を固定しているとキャンパーが集まらないという状態があまりない。リピーターが多い→FIWC 関西・東海。

【FIWC チャイナキャンプが重視するもの】

たいらんさんからメールを受けて、現役キャンパーで検討をしました。

・現在の FIWC 九州が求めるのは何か？→第一に、FI 九州としての中国キャンプの存続！
→そうすると、ハンチョン村に固定する方が OBOG もチャイナキャンプについて新キャンパーに伝えやすく、キャンパーが根付きやすい？

・しかし村をハンチョンに固定するとなると、建設ワークがもうほぼできないと判断されている。建設ワークのないキャンプにするのも良いが、このままハンチョン村にキャンプ地を固定するのではなく、建設ワークを含むキャンプの選択肢をまだ消さずにおきたい。
→2013 春キャンプでいくつかの村を回る下見を行い、以降村を固定するか再度検討するのは？

・下見キャンプをずるとしても、春キャンプも下見だけではなくそれだけでひとつのキャンプの形を持てるように、下見をしながらハウスワークを行うのはどうか。

キャンプ存続を根強くするためにハンチョン村に固定するという案、建設ワークを含むキャンプの選択肢を消したくないためいくつかの村で下見をするという案。相反する 2 つの案がありました。そして最初にまとめた案は以下の通りです。

案①（JIA 側に未提案）

・2013 年春のキャンプは村人訪問等のハウスワーク中心のキャンプを、2~3 村回って行いたい。2013 年夏に向けての建設ワークの下見も兼ね、それぞれの村の中をよく見て回りたい。

・建設ワークに適した村が見つかれば、2013 年夏にワークキャンプを行う。なければ、夏キャンプも春と同じくハウスワーク中心キャンプを行う。

・2014 年春以降、村を固定するか再度検討。

これを JIA 側に提案するかどうか、この次のミーティングまでに各自が考えることになりました。まあ提案しないことになったんですけどね。それは以下で。

【どんなキャンプをしたいのか】

上の案①をまとめたのが第 2 回ミーティング。第 3 回ミーティングでは、春キャンプについて、個人個人がどんなキャンプにしたいのかをもう一度考え直して共有しました。その結果、

・現キャンパー全員が、「また村人に会いにハンチョン村に行きたい」「自分がキャンプに行ける残り回数を考えると、またハンチョン村の村人と会いたい」「ハンチョン村に行った

ことはないけれど、5人しか住んでいない村でもまだできることはあると思うから行ってみたい」と、ハンチョン村に行きたいということで一致しました。今回行かない理由がないと判断し、ハンチョン村に行きたいと JIA 側に提案することに決定。JIA 側から、ハンチョン村は大規模な建設ワークを行うのにふさわしくないと判断されているため、建設ワークの下見としてのキャンプではなく、村人に喜んでもらえるようなキャンプを目標とすることに。

・また、全員一致ではありませんが、いくつかの村を回りたいとの意見が出ました。しかし、「建設ワークを求めた下見キャンプとなってしまうと、結局関東委員会のチャイナキャンプのように将来ほぼ消滅してしまうことも考えられるのではないか。しかしまた、リピーターを求めるためにキャンプ地・内容を固定してしまうと、将来のキャンパーを縛ってしまうのではないかという心配もある。」という意見から、建設ワークの下見としてではなく、他の村を知るための見学として訪れたいという意見にまとまりました。

そして、新たにまとめた案が以下の通りです。

案② (JIA 側に提案)

2013 年春キャンプでは、2011 年春から FIWC 九州が訪問を続けているハンチョン村と、加えて他のハンセン病快復村も訪問したい。

訪問の目的は昨年度までと違い、夏キャンプの建設ワーク予定箇所の調査ではなく、

・ハンチョン村…雑貨制作やパーティー、日本食等村人が喜ぶような活動を計画して行い、ひとつのキャンプとして成立させたい。

・他の村の訪問…現キャンパーは今までハンチョン村の村人 5 人としか関わっていないため、他の村の人々と出会ってみたい、環境などの違いを見学したい。

この提案は、JIA 側にメールで伝えることとなりました。

ここで、ハンチョン村の他に訪問する村の案として、FIWC 東海委員会のキャンプ(広州地区スーアン村)が挙がりました。理由は、FIWC 九州のキャンパーが FIWC 東海のキャンパーからスーアン村の環境やキャンプについて聞いていたことで、ハンチョン村と全く違う様子であるというスーアン村について、そしてスーアン村キャンプについて興味を持っていたから、というものです。

しかしスーアン村は JIA 桂林地区の管轄外。JIA 広州地区のキャンプ地であるので、案②を伝えたメールの中ではスーアン村に行きたいとは書かず、ただ他の村に行ってみたい、と書きました。

【スーアン村訪問について、FIWC 東海とコンタクト】

上の案②に対しての JIA の返答は次の通りでした。

ハンチョン村に行くのは OK。中国人キャンパーは新学期が 2/23 頃始まるので、土日を利用して一緒に行くかたちになる。

これにて 2013 年春キャンプハンチョン村訪問決定です。内容としては、夏キャンプの下見ではなく村人が楽しめるようなキャンプにすること。つまり言っちゃえば一番の目的は 村人に会いに行くことですね。

ところがもう一つの、他の村に行きたいという件について触れられませんでした。しかし理由は薄々わかっていました。中国人キャンパーはキャンプ期間に新学期が始まるのです。つまり、彼らに他の村と一緒に行ってもらうとなると、かける負担が大きいだろうと判断。→私たちが直接 FIWC 東海とコンタクトを取り、広州地区スーアン村キャンプを見学させてもらうのは？

2013 年春キャンプで JIA 桂林地区のキャンパーと一緒にハンチョン村以外の村を訪れるのは負担になるようなので、この時点でもう一つの村としてスーアン村に狙いを定めました。そして、FIWC 東海チャイナキャンプリーダー（当時）のよしみさんにぴっちゃんが連絡を取ったところ OK をもらいました。ってことで、2013 年春キャンプスーアン村訪問決定したのです。内容は見学。山奥にあるハンチョン村しか行ったことない FIWC 九州のキャンパーが、環境が整っていると聞くスーアン村の様子と、同じ FIWC の東海がどんなキャンプやっているかを見に行こうってことでした。

それで、立てた日程としてはこうなりました。

2/18(月)…佐賀→上海→広州と飛行機で移動。夜にたいらんさんと会いたい。
19(火)…広州→スーアン村とバス移動。FIWC 東海と JIA(広州地区)の学生に合流・キャンプ見学。村に 1 泊。
20(水)…スーアン村→広州→桂林とバス移動。桂林地区のキャンパーと合流。
21(木)…桂林→ハンチョン村に移動。26 日(火)までキャンプ。
26(火)…ハンチョン村出発。桂林滞在。
3/ 1(水)…上海に移動。
2(木)…帰国。

このあと変更もあって、ハンチョン村を離れたのは 25 日になって、たいらんさんは自身のキャンプが被ってしまって会えなかったですけど。会いたかった。

と、このような濃いミーティング経緯を辿って、2013 年春キャンプについて決めたというわけでした。お疲れ様でした。

日程

今回は 2 つの村を訪問しました。一つは広州にあるスーアン村で、もう一つは貴港（グイガン）にあるハンチョン村です。移動する際は中国人学生と一緒にいてくれたので、スムーズに移動することができました。



日時	場所	移動手段	所要時間
2/18	佐賀有明空港→上海浦東空港	飛行機	2 時間
	上海浦東空港→上海虹橋空港 ※虹橋空港第 2 ターミナルから第 1 ターミナルまでは地下鉄で約 15 分	バス	1 時間
	上海虹橋空港→広州白雲国際空港	飛行機	2.5 時間
	空港→ホテル	地下鉄 徒歩	30 分 30 分
2/19	ホテル→広州バスターミナル	徒歩	1 時間
	広州バスターミナル→東莞駅	バス	1 時間
	東莞駅→スーアン村	バス 渡し船	1 時間 5 分

スーアン村に滞在

2/20	スーアン村→東莞駅	渡し船	5分
		バス	1時間
	東莞駅→広州バスステーション	バス	1時間
	広州バスステーション→桂林バスステーション	バス	約8時間
2/21	桂林→貴港	電車	7時間
2/22	貴港→蒙圩	バス	2時間
	蒙圩→早冲村	車 徒歩	20分 2.5時間

2/22～2/24 キャンプ

2/25	早冲村→貴港	トラック バス	45分 2時間
	貴港→桂林	電車	5時間

2/26～2/28 桂林に滞在

3/1	桂林の中心街→桂林両江国際空港	タクシー	1.5時間
	桂林両江国際空港→上海浦東空港	飛行機	2時間
3/2	上海浦東空港→佐賀有明空港	飛行機	2時間

ハンチョン村について

● 場所

ハンチョン村は、中国の南側に位置しています。正確には、広西省壮族自治区貴港桂平市にあります。桂林からハンチョン村まで移動するには、約2日かかります。山奥にあるので、山の手もとから村までは徒歩で約3時間かかります。



● 環境

【気候】

気候は比較的温暖で、福岡よりも暖かいです。雪が降ったことはないらしく、今回は雨の日が多かったです。



ソーラー
電球

【電気】

山奥のため、電気は通っていません。しかし、現地のボランティア活動により、ソーラー電気が設置されており、夜は電球を使うことができます。ただし、日中に日の光が当たらなかった場合はソーラー電気を使うことができないので、夜は真っ暗になります。

【電波】

電波が届かないため、村の中で携帯を使うことはできません。村人の何人かは携帯を持っていますが、村から30分程歩いた場所であれば電波が入らないので、そこまで移動して使用しなければなりません。

【病院】

病院は村からバイクで30分程の所にあります。

【その他】

水は、山からの水が引かれています。直接飲むのは危険です。水を引いているパイプの中に苔が生えているためです。トイレは、2008年のキャンプでキャンパー用のものが作られています。村人はキャンパー用のトイレを使う人もいますが、トイレがない状態の人もあります。村人の何人かはモーターバイクを持っており、食料や生活物資などはバイクに乗って市場まで買いに行っています。



トイレ

村人紹介

男性 4 人、女性 1 人。村人の 1 人には奥さんと 2 人の娘さんがいます。娘さんは学校が長期休暇のときなどは村に戻ってきます。ハンセン病による後遺症や健康状態は、村人により異なります。政府から毎月一人当たり 250 元(約 3,000 円)が支給されています。しかし、薬などは高額なため金額は不十分です。村人の何人かは、農業や養蜂、養鶏をしています。

チェンボウ (陳伯)

よく話すおじいちゃん。チェンボウは腰痛があるものの、健康であり、バイクに乗って市場まで買い物に出かけます。畑を作っており、猟をすることが趣味です。一人だけ村から徒歩 20 分離れたところに住んでいます。今回のキャンプでは、ほぼ毎日チェンボウに会いに行きました。チェンボウが作ってくれたお昼ごはんと一緒に食べることができました。猟で使う銃や、猟で仕留めた鳥を見せてくれました。



ガンボウ (甘伯)

ワイルドなおじいちゃん。お酒とたばこが大好きで、朝からお酒を飲んでいきます。キャンパールームの隣に住んでいるため、一番接する時間が長かったです。歌ったり踊ったり、とても元気！今回のキャンプでは、一緒にトランプをして遊んだり、晩御飯を食べさせてくれたりしました。お金を賭けたトランプでは凄く盛り上がりました！（笑）日本食を作るときは、火をおこす手伝いをしてくれました。村を出るときに、中国の伝統であるお年玉のようなものをくれました。



タンボウ（唐伯）

気さくなおじいちゃん。奥さんと2人の娘さんがいます。とても元気で、motorバイクに乗って市場に買い物に行きます。家の隣でバイシャンコウという果物を栽培しています。今回のキャンプでは、前のキャンパーがタンボウ宛てに書いた中国語のメッセージと一緒に読んでくれました。子供の扱いに慣れているのか、分かり易い言葉で丁寧に話してくれます。また、私たちに手紙も書いてくれました。



ハイフォン（海風）

タンボウの2人娘の一人で、9歳の女の子。小学校に通っていますが、長期休暇の間はハンチョン村に戻ってきます。非常に元気で活発。なんにでも興味津々なところがとても可愛いです。今回のキャンプでは、日本から持って行ったピアノカが気に入ったようで、ずっと吹いていました。また、村人とキャンパーの通訳などをしてくれるしっかりした一面もあり、頼もしい存在です。



サンスー（三叔）

優しいおじいちゃん。足の後遺症が重く、歩くときに杖が必要です。独学で医学を学び、村のお医者さんの役割を務めています。家の裏で養蜂をしています。今回のキャンプでは、キャンパー達が村から離れたところに行っているときに、足が悪いにも拘らず山を登って迎えに来てくれました。また、さわり心地の良い耳たぶを触らせてくれました。日本から持って行ったあさげに興味津々でした。優しい瞳でいつも私たちを見守ってくれました。



シェーナイナイ（謝奶奶）

可愛いおばあちゃん。おそらく93歳で、ハンチョン村で最も高齢。後遺症が重く、視力が弱かったり、杖がないと歩けなかったりします。1人では生活が困難なため、隣に住むサンスーが食事などの手伝いをしています。今回のキャンプでは、足の傷口の消毒や洗髪、身体拭きなどを手伝いました。また、日本人2人だけで会いに行ったときには、一生懸命話しかけてくれました。シェーナイナイの周りにはゆっくりした時間が流れています。



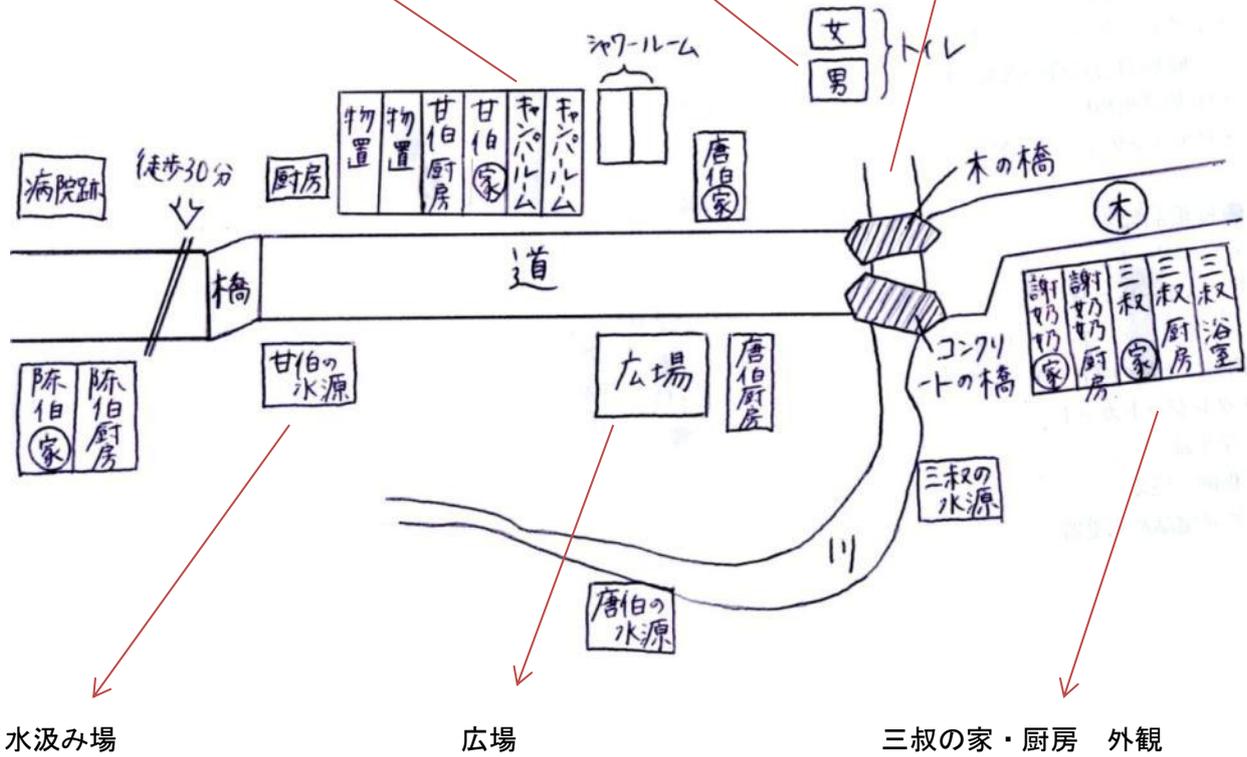
村の平面図



キャンパールーム 外観

トイレ(和式)

木の橋



水汲み場

広場

三叔の家・厨房 外観



中国人キャンパー紹介

今回一緒にハンチョン村でキャンプしてくれたキャンパーたちはこの7人！(*^^*)



フェイフェイ

2011年夏ハンチョン村キャンパー。今回の春キャンプでは、一番長くわたしたちと一緒にいてくれました。彼女の特徴といえば、とにかく食べること…。電車でも村でも町でも、気付いたら何か食べている。そしてそのキャラを自分でいじる。口癖は「I need 減肥(ダイエット)」。



ハイチョン

2011年夏ハンチョン村キャンパー。当時KPで、日本人キャンパーにマザーの愛称でも親しまれていました。その愛称通り優しくお母さんみたいな存在…でも男勝りな一面も。ハンチョン村までの山登りもフェイフェイとふたりで先頭切ってどんどん進んでいく姿はすごく頼もしかったです。



チャンチエ

男勝りのフェイフェイ・ハイチョンに対して、大人しめなチャンチエ。今回の女子キャンパーの中で、一番女の子っぽくてかわいくて癒し系でした。日本のアニメが大好きで、銀魂について熱く語る一面も…(笑) 日本に手紙を送りたいと言って住所を聞いてくれる、優しい女の子です。



シャオシー

2011年夏・2012年春ハンチョン村キャンパー。前回長かった髪の毛も、この1年で何があったのかぱっさり短髪に。ひげも伸ばして何やらワイルド路線を狙い始めた様子。写真の写り方にこだわりがあるナルシスト。ヘビースモーカーでもあって、村ではよくじいちゃんたちと一緒にタバコ吸ってました。



シャオツオーガ

2011 年夏ハンチョン村キャンパー。通称イケメン先輩。ふと気付いたらお茶ついでくれたり、料理よそってくれたり、よく気がきくところがその名の由来か。でも変なところもあって、いきなり大声で笑いだす。「ちょっとまで～」とか「までまで～」とか、知ってる日本語よくしゃべってておもしろかった。



ムーホウ

ハンチョン村と同じ桂平市出身で、ハンチョン村の訛り言葉も話せる。ムーホウと話してるときの村人はすごく楽しそうでした！料理が好きだと言って、朝誰よりも早く起きて朝食を用意してくれました。優しいお父さんになりそうです！また、自分の手の小指をありえない方向に曲げてみんなを驚かさすというおちゃめな一面もありました（笑）



ハイチン

通称しーやん。由来は話すと長くなります。元 JIA キャンパーで、現在は卒業生。普段むすっとした顔してるときが多いけど、笑うとかわいい。よく村のじいちゃんや他のキャンパーとトランプとかマーじゃんとかしてたけど、あんまり強くはないみたい？ 桂林滞在中は本当にお世話になりました。

ハンチョン村での活動

① Japanese Campers Book をプレゼント

村人たちは、日本人が村に来ることをとても喜んでくれます。ある村人は、何年も前に村を訪れた日本人キャンパーへの手紙を現キャンパーに託していました。そこで、ハンチョン村を訪れたことのある日本人キャンパーの写真を可能な限り集めてアルバムにし、村人全員にプレゼントしました。

現地で似顔絵を書いて完成！

日本のお土産「博多の女」と一緒にプレゼント

日本でほぼ完成させて…



② 日本食

今回のキャンプでは、日本食を2回振る舞いました。1回目は肉じゃがと青椒肉絲、2回目はカレーとわらびもちを作りました。更に、さんま缶とたくあんを持って行って食べてもらいました。わらびもちは成功させることができませんでしたが、他は好評でした。



炒めるぞ！



カレー完成☆





肉じゃがと
青椒肉絲完成☆



皆でおいしく食
べました！

③ ハンチョン村の現状調査

2012年夏に行ったときと比べて、変わっていたところを調査しました。ワークによって改善した箇所や、新たな問題が発生している箇所などがありました。



チェンボウの家の前がコンクリ
ートで舗装されていました。



水汲み場の横に畑ができて
いました。



ガンボウの家からタンボウの家に行く途中の道路がコンクリートで舗装されていました。



道路の破損

- ・木の伐採
- ・道横の垣
- ・新しい道



新しい道を作るために導入された大型機械による影響

④ シェーナイナイの手伝い

シェーナイナイは足の後遺症が重いため、消毒をして包帯を取り換えました。また、髪を洗ったり、身体を拭いたりするのを手伝いました。



スーアン村について

今回私たちは、広東省東莞市にあるスーアン村でのキャンプを見学しました。

Q. スーアン村って？

A. スーアン村とは、広州近くにあるハンセン病快復村で、JIA 広州地区と FIWC 東海委員会のキャンプ地です。



Q. どうして今回訪問したの？

A. FIWC 九州のチャイナキャンプ現役キャンパーは、ハンチョン村以外の村に行ったことがありませんでしたが、今回の春キャンプの出発前国内ミーティングにて、「ハンチョン村以外のハンセン病快復村を見てみたい」という意見が挙がりました。

見学という形でスーアン村を訪れることにした理由は、FIWC 東海のキャンパーから、

- ・スーアン村の環境は整っていて、村人も多い
- ・FIWC 東海はキャンパーが多い、リピーターも多い
- ・スーアン村キャンプは春も下見ではなくワークキャンプを行っている

と聞いていたことで、ハンチョン村とはずいぶん違うスーアン村のことに興味を持っていたということです。

また、

- ・他の日本人キャンパーがどんなキャンプをしているか知りたかった
- ・他の日本人キャンパーとつながりを持ちたかった

ということも理由に挙げられます。

次ページから、スーアン村の環境について、また FIWC 東海のキャンプについて、それぞれハンチョン村の環境、FIWC 九州のキャンプと比較して報告します。

<環境>

	スーアン村	ハンチョン村
場所	 <p>三角州。最寄りのバス停近くから渡し船が出ています。歩く距離はそれほど多くありません。</p>	 <p>山の中。ふもとの町から村までは、未舗装の道を徒歩かトラックで登らないといけません。徒歩だと2時間半の山登り。</p>
村人の数	<p>多いときは800人程度で、現在は80人程度。最近では他のハンセン病快復村からも移り住む人が多く、村人の数はまた増え始めています。</p>	<p>多いときは300人程度いたそうですが、亡くなった人も多く、現在では5人のみ。残っている村人も、他の村に移ることを政府に薦められています。</p>
ライフライン	<p>電気：通っています。日本での生活と変わりありません。街灯もあります。 水道：通っています。</p>	<p>電気：不安定なソーラー発電の電球のみ。夜は懐中電灯が必須。 水道：過去のキャンパーが作ったものがありますが、壊れているものもあります。</p>
村人の部屋	 <p>病院のような作りです。見学した限りでは、二人一室の部屋が多かったです。</p>	 <p>長屋の一室。単純な作りで、全て一階建てです。寝室と台所を分けて二部屋使っている村人もいます。</p>

<キャンプ>

	FIWC 東海 (JIA 広州地区・スーアン村)	FIWC 九州 (JIA 桂林地区・ハンチョン村)
概要	春夏ともに下見はなく本キャンプ。下見は現地のキャンパーが行いますが、日本人もワークについての提案をメール等で行います。	春に下見キャンプ、夏に本キャンプ。 下見キャンプ...中国人キャンパーと日本人キャンパーが共に夏の本キャンプの建設ワーク・ハウスワークに向けた下見を行う。 本キャンプ=ワークキャンプ...下見で立てた計画に基づき建設ワーク・ハウスワークを行うキャンプ。 (今年の春キャンプは特例で、下見を行っていません)
ワーク内容	道の舗装も行いますが、洗濯物干しを作ったこともあるそうです。絶対に必要なものではないけれど生活を便利にするものを作るという点で、ハウスワークの目的に通じるところがあるように思います。	建設ワークでは道の舗装を行うことが多かったです。過去のキャンプでは橋の補強等。
キャンパー数	今回日本人キャンパーは10人で、4年生が3人、2年生が4人、1年生が3人でした。リピーターは特別多いというわけではありませんが、コアメンバーの中には就活中の3年生でもキャンプに参加した人や、4年生までキャンプに参加している人もいます。	日本人キャンパーは本キャンプでは6~8人程度のことが多いですが、下見になると毎回2~3人のみ。リピーターがあまり多くありません。
中国語	中国語が少し話せるキャンパーもいますが、話せないキャンパーも少なくありません。春キャンプ時の4年生が卒業して、現在中国語がわかるキャンパーがほぼいなくなったことが課題だそうです。	現役のキャンパーは誰も中国語を話せず、英語の話せる中国人キャンパーと共にでないとキャンプできません。
村到着まで	村まで日本人だけで行くことができます。中国人キャンパーと落ち合うのは村で、今回は日本人キャンパーの方が2日先に村に入ったそうです。	村まで日本人だけで行くことができず、いつも中国人キャンパーに空港まで迎えに来てもらっています。

<総括と感想…ハンチョン村に思いを馳せる>

行ってみて感じたことは、とにかくスーアン村とハンチョン村は対照的であるということ、そして FIWC 東海と FIWC 九州のキャンプには似ている点と違う点、両方があるということでした。

まずキャンプについてから。

FIWC 東海のキャンプに 1 日だけですが参加して、キャンパーに話を聞いて、「楽しそうだな」「楽しいな」と感じるが多々ありました。

春夏どちらもワークキャンプを行うことで、毎回新しいキャンパーを呼ぶことができるということや、卒業間近の 4 年生もキャンプに参加できることはとても魅力的でした。下見を一緒に行わずとも、日本人キャンパーが中国人キャンパーにメールにて建設ワークの提案ができていたことが、春夏共にワークキャンプができる大きな要因であるようでした。

また、中国人キャンパーに大きく負担をかけることなく、自分たちで日本から村まで行っているというのも、私たち FIWC 九州ができていないことで、可能であるならこれからできるように努力したいと思いました。

逃走中 in スーアン村をしたり、朝の体操が DJ OZMA のアゲアゲだったり、村人の前でももクロ踊ったり、夜に焼き鳥屋さん開いたり、全てがうまくいったかはともかくエンターテインメントの企画が面白いし準備もしっかりしていて素敵でした。

しかし、違う点ばかりではありませんでした。FIWC 東海のキャンプは FIWC 九州と同じ悩みも持っていました。リピーターが特別多いわけではないということ。中国語のできるキャンパーがこの春卒業して、現役キャンパーにはほぼいないということ。全く違う環境の村で違うキャンプをしている 2 つの委員会が、同じような悩みを持っていました。

そして対照的な 2 つの中国のハンセン病快復村について。

私たちが見てきたハンチョン村は、桂林地区にあるものの桂林の中心から村まで行くのに丸 2 日かかり、交通の便も悪い山奥に位置しています。電気・水道・ガスのライフラインも、私たちの生活からするとあまりに不十分です。初めて訪れたとき、まさに「隔離」という言葉にふさわしい場所だ、と感じました。

対してスーアン村は、広州の町からのアクセスも比較的容易です。村でもスイッチを押せば電気が付きます。「ハンセン病患者が隔離された村」という印象は受けませんでしたし、むしろ私たちとあまり変わらない生活をしているように感じられました。着ている服もきれいでした。現在でも村人の数が増えていて、それらの人々は他のハンセン病快復村から移り住んでいるそうです。中国のメディアがハンセン病について取り上げる際にスーアン村について取材することもありますし、そのこともあってスーアン村は広く知られているのか JIA・FIWC 以外の団体もボランティアに入っているそうです。FIWC 東海のキャンプリーダーだったよしみさんは、「他のボランティア団体もどんどん入っていて、現在では物

が飽和している状態だ」と言っていました。

スーアン村の環境は、ハンチョン村と比べてとても便利なものだと感じました。しかし、ハンチョン村の村人がかわいそうだとか恵まれていないだとか、そういった風には思いませんでした。ハンチョン村の村人も、現在では望めば便利な生活が送れるのです。

きっとスーアン村に最近移り住んだ人々も、もともとは転居を持ちかけられたのですが、現在ハンチョン村の村人は、環境の整った別の村へ転居をするよう政府に持ちかけられています。ハンチョン村を移るつもりだという村人がいました。しかし中には、村を移りたくないと言っている人もいました。どうして不便なハンチョン村に残りたいと思うのか。その理由は、「会いに来てくれる学生たちがいるから」でした。

別の村に移っても、キャンパーたちはきっと村人に会いに行けるでしょうし、むしろ交通の便の良さから会いに行くこと自体は容易になるかもしれません。でも、村自体が小さくて村人の少ないハンチョン村でのように、私たちからだけでなく村人からキャンパーに会いに行けたり、よく一緒にごはんを食べたりお酒を飲んだり、一人ひとりとあんなに長い時間を過ごすことはできなくなるでしょう。ハンチョン村でキャンパーと過ごす時間を知っている彼にとっては、そうなることが悲しいのかもしれません。

そのことが村を移りたくないと思う理由であるということは、日本から会いに行っている私たちからすると嬉しいことですが、だからといって彼が不便な生活を続けなければいけないのか…。どうすれば良くてどうすれば悪い、と言い切れることではありません。答えもありません。ただ彼が、不便な環境にあっても村を離れたくないと思っている、という事実があっただけです。

FIWC 東海のキャンプを見てきたことで、他の委員会のキャンプを肌で感じられたし、チャイナキャンプについての悩みや考えを共有し合えることができたのは本当に嬉しいことでした。FIWC の他委員会のほとんどがチャイナキャンプを行っているために今回実現したことで、また東海委員会以外の FIWC のチャイナキャンパーとも交流を持ちたいと思いました。

スーアン村という、私たちの知らなかった中国のハンセン病快復村を訪れたことによって、ハンチョン村を新たな視点から見るができるようになりました。1つの快復村の現状を見ただけで、中国のハンセン病の現状について知ったことにはならないのだと気付かされました。ハンチョン村とスーアン村、この2つの村を知ったことは、中国のハンセン病について、日本も含め他の国のハンセン病についてもっと知りたい、と私に思わせてくれるきっかけとなりました。行って良かった！

キャンプリーダー原田佳美さんをはじめ、FIWC 東海委員会のみなさんと JIA 広州地区のみなさんに深く感謝します。ありがとうございました！

桂林観光

2月26日から3月1日までの4日間、桂林に滞在して中国人キャンパーと交流しました。次のキャンプに向けて、中国人キャンパーとの信頼関係を作ることができたし、何より凄く楽しかったです！

滞在先

一緒にキャンプをしたキャンパー「しーやん」の家に3日間泊まらせてもらいました。この家はしーやんと2人の元キャンパーが共同で借りているマンションで、私たちが滞在している間、たくさんのキャンパーが遊びに来てくれました！

しーやん
だよ☆



桂林名所

偶然、ホテルから水が流れるイベントを目撃！
ラッキー☆



観光名所である日塔月塔へ連れて行ってもらいました。ラブラブか！（笑）

ZZZ



カラオケ

カラオケにも行きました。中国ではカラオケのことをKTVと言うそうです。日本の曲もいくつか入っていました。「平井堅」が「平井ケンジ」になっていました（笑）

西山公園

桃の花を見に行きました。ちょうど満開で、とてもきれいでした！その後公園にある山を登ることに…。かなりキツかったけど、絶景&ダイエットの一石二鳥でした！



しーやんやんの
万華鏡



お土産

夜遅い時間だったのですが、私たちのために
お土産市場まで案内してくれました。皆
凄い勢いで値切っていました！その後夜
食を食べに行きました。勝利の宴？（笑）
また、桂林キャンパーの中には私たちにお
土産をくれる人もいました。大切にしたい
と思います！

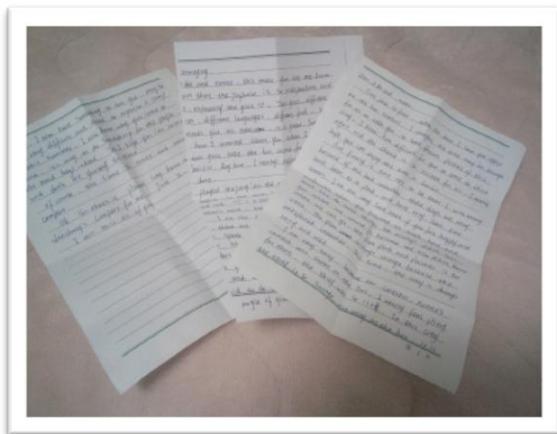
大学見学

桂林の中国人キャンパー達が
通っている大学を見学に行き
ました。桂林内には複数の大学
がありますが、主に2つの大学
を見学しました。大学見学中に
たくさんの桂林キャンパーが
会いに来てくれました！



手紙

私達が桂林を離れるときに、昨年一緒にキャンプをした康平（カンピン）が手紙を渡してくれました。いつもひょうひょうとしている彼の本当の気持ちが伝わってきて、嬉しかったです！



康平だよ☆

ミーティング

JIA の桂林地区代表と直接会って、夏のキャンプについて話し合う機会がありました。メールだけでは分からないことをじかに感じる事ができて、有意義なミーティングになったと思います。夏に向けてお互い頑張ろうと励ましました！（詳しくは 32 ページ参照）

桂林代表チーモン



またこんな風に遊べる時間を作ってほしいな(*^^*)



今回ずっと一緒に行動してくれたフェイフェイ

JIA キャンパーたちとのミーティング

—2013 年夏キャンプに向けて

桂林滞在中、JIA 桂林地区・FIWC 九州のキャンパーで、2013 年夏キャンプについてのミーティングを行いました。例年春キャンプでこのようなミーティングは行いませんが、今年の春キャンプは例年とは様々に異なっていたため、このような場を設けることになりました。主に話し合ったのはキャンプ地についてとキャンプ内容についての 2 つです。

桂林でのミーティングで JIA 側から選択肢の提案と説明を受け、FIWC 側はその提案を日本に持ち帰り希望を決めて、JIA 側に伝えました。

<FIWC 側の希望>

第一希望…new village(formal)→AGM→ハンチョン村(informal)

第二希望…ピンシャン村 or ナンタン村(formal)→AGM→ハンチョン村(informal)

※new village…JIA 桂林地区が現在新しくキャンプを始めようと計画しているハンセン病快復村。

※ハンチョン村…JIA 桂林地区のキャンプ地。これからは元キャンプ地、と言ってもいいかもしれない。FIWC 九州は 2011 年からずっとハンチョン村でキャンプをしてきた。

※ピンシャン村・ナンタン村…JIA 桂林地区のキャンプ地。

※AGM…Annual General Meeting の略。毎年夏に行われる JIA の全国ミーティング。開催場所は JIA が委員会を置く各地区で、年によって異なる。

※formal…JIA が主催するワークキャンプ。詳しくは後述。

※informal…JIA が団体としては関わっていないが、JIA のキャンパーが村を訪問すること。詳しくは後述。

現在、この希望に対しての JIA 側の返事を待っており、JIA 側の決定をもって FIWC 九州 2013 年度夏キャンプ地が決定します。

次ページから、この希望を出すまでの JIA 桂林地区と FIWC 九州のミーティングの内容について触れていきます。

●桂林でのミーティングまでの経緯

例年の春キャンプは夏キャンプの下見という位置づけで、中国人キャンパーと共に村に入って調査を行い、夏キャンプのワーク・ハウスワークについて検討するという形式をとっていました。しかし今回の2013年春キャンプは例外で、中国人キャンパーと共に夏に向けての調査・検討はせず（ハンチョン村の現状確認を日本人のみでは行った）、村人との交流がメインでした。これはいわゆる「下見」ではなく「訪問」という位置付けです。

どうして今回ワーク・ハウスワークの下見調査を行わなかったかという、ハンチョン村キャンプに関してのJIA側の今後の方針が変わってきているからです。具体的には、FIWC九州が2011年キャンプから続けて訪れているハンチョン村でのキャンプを、JIA側が打ち切るという話が2012年夏ごろからされており、そして実際に、この春キャンプで夏に向けた下見はしないとされたのです。

しかし、FIWC九州の現役チャイナキャンパー全員が、今回のキャンプでハンチョン村には行きたいとの意見だったため、「下見」ではなく村人に会いに行くことを目的とした「訪問」という形をとり、ハンチョン村を訪れることにしました。下見のために他の村に行くという案も出しましたが、キャンプ期間の2月後半には中国人学生の新学期が始まっており、一緒に村に行ってもらうとなると負担が大きい等の理由から、この案は中国人に提案することなく却下されました。*

すなわち、今回ハンチョン村を訪問した時点で、夏キャンプについての計画は私たちにはまったく見えていない状態だったのです。ハンチョン村を訪問した後、私たちはJIA桂林地区の学生と共に桂林に滞在しました。その中で、JIA桂林地区現代表のチーモンを始めとするキャンパーたちと、2013年夏キャンプに向けてのミーティングを行いました。

<参加者>

FIWC九州委員会：高橋千秋、武田まり乃

JIA桂林地区：チーモン（現代表）、ダダ（前代表）、その他キャンパー

原田燎太郎（たいらんさん）…JIAの創業者でありJIA全体の代表。今回のミーティングに直接参加はしていませんが、FIWCとJIAの学生の意思の疎通をしやすくするために、電話にて通訳をお願いしました。

以下、対話形式です。

*下見としてではなくとも、ハンチョン村以外の中国のハンセン病快復村に行ってみたいという意見が残ったため、今回はJIA広州地区とFIWC東海のスーアン村キャンプへの一日訪問が実現しました。詳しくは24ページ

FIWC : 私たちは 2011 年からずっとハンチョン村でキャンプをしてきた。2013 年のキャンプ地としてもハンチョン村を一番に考えたのだけれども、JIA はもうハンチョン村でのキャンプはもうしないと聞いた。ハンチョン村でのワークキャンプは、本当になくなるのか？

JIA : 今年の夏から、JIA が団体として行うハンチョン村でのワークキャンプ (=formal キャンプ) はなくなる。ハンチョン村の村人は現在わずか 5 人である。今までのキャンプの建設ワークで村人ひとりひとりの生活に即したワークを多くしてきた結果、もう私たちのキャンプでできる内容のワークはとて小規模なものしか残っていない。20 人程度のキャンパーが 1 週間程度滞在して行う formal キャンプには、ハンチョン村はもう適さないと考えたため、キャンプを打ち切ることに決めた。しかし、informal な訪問はこれからもできる。それは参加したいメンバーだけが計画して行うもので、JIA が団体として行うものではない。

	formal (work camp)	informal (visit)
主催	JIA の各地区。キャンプを行うために PT (Project Team) を立て、下見調査から行います。	個人。JIA のキャンパーが計画するものの、JIA が団体としては関わっていません。
目的	建設ワークによって村人の生活する環境を整えることと、ハウスワークによって村人の精神面をより良くすること。	村人に会いに行くこと。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道の舗装等の建設ワーク ・村人の家の訪問や掃除洗濯、部屋の飾り付け等のハウスワーク ・村人の傷のケア 下見キャンプの調査に基づいてこれらを行います。キャンパー起床時間や食事の時間も定められています。一日のことを振り返るミーティングを毎晩行います。	自由。キャンパーの生活にも時間の制限はありません。建設ワークやハウスワークは行わないことが多いです。好きな時に起きて、好きな時にご飯を食べて、好きな時に村人に会いに行くことができます。
キャンパーの人数	その年その年で違ったり、また村によっても違ったりしますが、だいたい 20 人～30 人です。	自由。基本的に 10 人未満の少人数です。
日程	1 週間程度。	自由。学校がある時期に土日を利用して行くことも。

仕事 分担	総リーダー、ワークリーダー、ハウスイ ークリーダー、KP（食材管理）等の係 を決めます。	なし。
----------	--	-----

JIA： FIWC 九州のキャンパーがハンチョン村にこれからも行きたいのであれば、訪問という形で行くことができる。しかし、それはあくまでも informal なものであり、ワークキャンプはできない。それに、もし日本人キャンパーが多く集まったとき、全員がハンチョン村を訪問すると人数が多すぎる。その場合は、

- ①キャンパーが分かれ、2つの村（ハンチョン村と別の村）へ別々に行く。
その場合、ハンチョン村は訪問（informal）、別の村はワークキャンプ（formal）という形をとる。
- ②JIA 桂林地区が新たにキャンプを開拓しようとしている村（以下 new village）へ全員で行き、ワークキャンプ（formal）に参加する。

という2つの方法のどちらかがいいと思う。どう思う？

FIWC： 今年の夏キャンプは、日本人のチャイナキャンプ経験者が一人しか参加しない可能性が高い。①だと、片方の村へ行く日本人が全員キャンプ初参加者になってしまうので不安。しかし②だとハンチョン村に行くことができない。現キャンパーとしてはハンチョン村に行きたい気持ちが強いので、ハンチョン村に行かないという選択肢を選びたくない。

たいらんさん：ハンチョン村と new village どちらにも行くことも可能だと思う。

new village でキャンプを始めると、ハンチョン村のようにワークキャンプを打ち切ることがあるとしてもずっとずっと先のことで、この先来年、再来年と同じ村で長くキャンプをすることができる。日本人の新キャンパーには JIA 主催の formal のワークキャンプに参加してもらえることになる。そのあと informal な形ではあるがハンチョン村を訪問するとなると、過去のワークで建設されたものや、村人の家にあるキャンパーとの写真などを新キャンパーが見ることで、過去のキャンパーが今までどんなキャンプをしてきたのか知ることができる。ハンチョン村を訪問したことのある日本人キャンパーと村人とのつながりもわかってもらえる。それは新しいキャンパーがこれからキャンプを担っていくために、よい道しるべになると思う。

FIWC : new village でのワークキャンプとハンチョン村への訪問がどちらもできるのであれば是非そうしたい。ただ、FIWC 九州は毎年夏に Annual General Meeting* (以下 AGM) に参加している。2つの村へ行き、その上 AGM にも参加するとなると、移動に大きく日程を割く。今年の場合は AGM が桂林で行われる予定と聞いたので、桂林地区にある2つの村と AGM 開催地に行くことがそう難しくないかもしれないが、来年以降桂林以外の場所で AGM が開催される場合、AGM に参加して2つの村へ行くことは可能だろうか。

たいらんさん : FIWC 側が日程さえ多めに確保すれば問題ないと思う。

FIWC : そうであるなら、今年の夏は new village でのワークキャンプ、ハンチョン村への訪問、AGM に参加という形にしたい。来年以降も次のキャンパーがその形を望むのならそうしてほしい。new village に村を固定すると、長く同じ村でワークキャンプができるため村人との絆も築けるだろうし、ハンチョン村への訪問も、ハンチョン村を好きになったキャンパーには続けてほしい。

JIA : 別の問題がある。new village は現在 JIA のキャンパーで下見中だが、今年の夏にワークキャンプができるかどうかはまだわからない。

○下見が成功すれば、今年の夏から FIWC 九州と JIA 桂林地区のキャンパーが共に new village でワークキャンプができる。その場合、今年の夏に関しては、日本人キャンパーは join するだけ (=下見キャンプを共に行わない) のキャンプになってしまうが、来年以降は organize (=共に下見キャンプを行い、ワークやハウスワークの計画を共に考える) のキャンプができる。

○しかし、下見が上手くいかなかった場合、今年の夏 new village を訪れることはできない。

FIWC : new village が今年開拓できなかった場合に、ハンチョン村だけを訪れると、2013年夏の日本人キャンパーはワークキャンプができないということになる。建設ワークを含んだ JIA の formal のワークキャンプに参加することは、日本人の新キャンパーにとっては大切だと思う。今年の夏 new village でのワークキャンプができない場合には、桂林地区の他のキャンプ地でのワークキャンプに参加できないか。

* 毎年夏に行われる、JIA 主催の全国ミーティング。2013年夏は桂林で開催される予定。

JIA : できる。ピンシャン村とナンタン村という 2 つの村は、現在でも formal のワークキャンプを行っている。しかし、そこでもだんだんと建設ワークの内容が限られてきていて、もうそれほど大きい規模のものではない。

FIWC : 内容が大規模ではないとしても、建設ワークを含んだ JIA の formal のワークキャンプに参加することは、日本人の新キャンパーにとっては大切だ。今年 new village でのワークキャンプができないのであれば、ピンシャン村もしくはナンタン村でのワークキャンプに参加させてほしい。

JIA : その場合は、どちらの村に行くか決めるために、ピンシャン村とナンタン村について FIWC のキャンパーがもっと知る必要がある。JIA 桂林地区には、これら 2 つの村に行ったことのあるキャンパーがたくさんいる。日本に帰ってからぜひ質問してほしい。

FIWC : 日本に帰ってから、他のキャンパーとも相談してから FIWC 側の希望を固め、改めてそれを伝えたい。

JIA : わかった。JIA も new village の下見を進める。new village の下見の結果と FIWC 側の希望を照らし合わせ、2013 年夏キャンプのキャンプ地について、4 月中旬までに決定して伝えたいと思う。

私たちは帰国後の国内ミーティングにて、夏キャンプのキャンプ地・内容について意見をまとめ、JIA 側に提案しました。

<キャンプ地案>

- | |
|---|
| (1)ピンシャン村 or ナンタン村(formal)→AGM→ハンチヨン村(informal) |
| (2)new village(formal)→AGM→ハンチヨン村(informal) |
| (3)ハンチヨン村(informal)→AGM |
| (4)new village(formal)→AGM |
| (5)ピンシャン村 or ナンタン村(formal)→AGM |

(1)…(+)移動が多くなりますが、ワークキャンプ(formal)もハンチヨン村への訪問(informal)もできます。new village でのキャンプができない場合はこれを希望。

(一) ピンシャン村もしくはナンタン村の下見に関われません。数年後に new village

でのキャンプが始まったとしたら FIWC 九州がピンシャン村やナンタン村に行かなくなる可能性があるため、結果として一時的な訪問になってしまうかもしれません。

(2)… (+) 移動が多くなりますが、ワークキャンプもハンチョン村への訪問もできます。new village でのキャンプはこれから長く続くと考えられるため、来年以降村を固定するのであれば長くキャンプができます。来年以降は下見からの参加ができます。

(-) JIA が現在行っている下見が成功しなかった場合、今年はキャンプできません。成功したとしても、今年は new village の下見に FIWC が参加できません。

(3)… (-) ワークキャンプができません。informal であることから自由度は高いですが、ハンチョン村に行ったことのないキャンパーにとってはすることを見つけにくく、楽しめない可能性もあります。

(4),(5)… (-) ワークキャンプはできますが、現キャンパーの強い希望であるハンチョン村の訪問ができません。

<FIWC 側の希望>

第一希望…(2)new village(formal)→AGM→ハンチョン村(informal)

第二希望…(1)ピンシャン村 or ナンタン村(formal)→AGM→ハンチョン村(informal)

に決定しました。これをメールにて JIA 桂林地区代表に伝え、現在は返信を待っています。ピンシャン村もしくはナンタン村でキャンプをするとなった場合は、どちらの村に行くか改めて決める予定です。

治安について

【問題点】日中情勢悪化による、中国の治安

今回は、日中領土問題が過熱したこともあり、治安についてはかなり不安がありました。日本でキャンプの計画を立てている際は、過激な報道をいくつか見たのでキャンプを見送ることも考えました。しかし、JIA の代表である原田燎太郎さん（たいらんさん）に連絡をとったところ、現地の様子は例年とさほど変わらないし、治安の面に関しては大丈夫と言われたのでキャンプを行うことに決めました。とは言っても不安は残ったので、次のような対策をとりました。



↑原田燎太郎さん



↑ジェンジェン ↑ムームー
広州で同伴してくれたキャンパー

【対策】

①JIA の中国人キャンパーに同伴してもらう

広州では、常に中国人キャンパーが同伴してくれました。バスで広州から桂林まで移動する際は日本人だけとなりましたが、特に危害を加えられることはありませんでした。桂林でも、常に中国人キャンパーが同伴してくれました。

→日本人だけで行動するよりも安全だし、私たちも安心できました。

②日本への連絡を頻繁にする

今回は日中情勢が悪化していたため、保護者の方々はとても心配されていました。そのため、可能な限り毎日連絡することにしました。去年は個人の携帯で連絡を取っていましたが、通信料が高くなると思ったので、今回は携帯を日本でレンタルし、使用料をキャンパーで分担することにしました。電波が入らなくて連絡できないこともありましたが、頻繁に連絡を取ることができました。

→心配されている保護者の方々に、安心してもらえました。

ティスコジャパン
でNOKIAの携帯を
レンタルしました。



【感想】

実際中国に行ってみて、心配していたような怖いことは全く起こりませんでした。私たちが日本人であると分かっても、笑って話しかけてくる人もいました。燎太郎さんやJIAのキャンパーが協力してくれたおかげだと思います。一方で、中国でのテレビ報道を見ると、反日色の濃いニュースも流れていました。中国でも日本でも、報道と実情の違いを感じました。報道で取り上げられるのは、様々な実情の一部を映したものに過ぎません。確かに、強い反日感情を持つ中国人がいるということは事実です。しかし、日本人にも親切にしてくれる中国人がいることも事実です。

保健

<保健バッグの中身>

虫よけシート3枚、ガーゼ3枚、オロナイン軟膏1瓶、虫よけスプレー1本、イソジン1本、粉末ポカリスエット2袋、熱さまシート4袋、コップ4つ、コットン1袋、正露丸1瓶、漢方胃腸薬1瓶、麺棒1袋、虫刺され薬1本、風邪薬1瓶、のどぬーるスプレー1本、きず薬1本、体温計、緊急医療用語集

<キャンパーが訴えた主な症状>

時	症 状	考えられる原因	対 策
中国滞在中を通じしばしば	せき 喉の痛み	・ 出発前からの症状だった ・ PM2.5が関係するかもしれないが、 断定はできない	特になし
ハンチョン村下山時	車酔い	舗装されていないぬかるんだ山道を車で下り、車内が大きく揺れたため	特になし

<総括>

今回のキャンプで、キャンパーが大きく体調を崩すことはありませんでした。広州と桂林でかなりの気温差があり、また人ごみの中に長時間いることもたびたびありましたが、その場その場の環境に適応できていました。日本でPM2.5の問題が大きく取り上げられていたこともあり、せきや喉の痛みの原因が気にはなりましたが、北京から遠く離れている広州・桂林では空が霞んでいることもなかったため、断定はできません。キャンパーが2人だけだったこともあり、体調の確認は最後までまめに行うことができました。毎回のキャンプで保健バッグを持参していますが、キャンパーが少ないと中身を分けて持つことがあまりできず、荷物に入れるのに場所を取りました。

会計

金額は全て1人分。1元=12円で計算しています。

【日本での出費】航空券

佐賀→上海	22,000 円
上海→広州	8,990 円
桂林→上海	5,190 円
上海→佐賀	9,180 円
計	45,360 円

● その他

レンタル電話	8,595 円
中国人へのお土産	1,050 円
アルバム制作費	700 円
日本食材料費	1,000 円
計	11,345 円

注) 個人で加入した保険代は計算に入れていない。

【中国での出費】

● 交通費

上海浦東空港→広州のホテル (※航空券代を除く)	地下鉄+バス	40 円	480 円
広州のホテル→東莞駅	バス	32 円	384 円
東莞駅⇄スーアン村 (※往復で計算)	バス+船	10 円	120 円
迎えに来てくれた中国人への 交通費カンパ	ムームー	25 円	300 円
	ジェンジェン	10 円	120 円
	桂林キャンパー	50 円	600 円
東莞駅→広州	バス	33 円	396 円
広州→桂林	バス	210 円	2,520 円
桂林→貴港	電車	47.5 円	570 円
蒙圩→貴港	バス	15 円	180 円
貴港→桂林北	電車	53.5 円	642 円
桂林中心街→桂林空港	タクシー	20 円	240 円
その他(※合わせて計算)	バス	計 15 円	180 円
		計 560 円	6,720 円

注) 1元で乗れるバス代は計算に入れていない。よって、実際には+αの交通費が生じた。

● その他

食費	12日間分	128 円	1,536 円
宿泊費	広州	90 円	1,080 円
	貴港	26 円	312 円
レインシューズ	雨が降っていたため	15 円	180 円
キャンプ参加費	食費など	20 円	240 円
		計 279 円	3,348 円

【全体の合計】

航空券	その他(日本)	中国での交通費	その他(中国)	合計
45,360 円	11,345 円	560 円(6,720 円)	279 円(3,348 円)	66,773 円

キャンプを振り返って

今回のキャンプを振り返りました。たくさんの反省点、改善点が見つかりました。これらを次回からのキャンプに活かしていきたいと思います。

良かった点

- ・ ミーティングのとき、OB・OGの方々と意見交換ができた
 - ・・・キャンプについて、OB・OGの方々の意見を聞き、今後の方針を考えていく上で大変参考になった。
- ・ 出発時間設定を早くしていたこと
 - ・・・当日人身事故があり、空港到着時刻に遅れが生じてしまったが、出発時間を早くしていたため、あまり支障が出なかった。
- ・ 桂林で、JIA（中国のボランティア団体）のキャンパーと、今後のキャンプのあり方について討論できた。
 - ・・・直接話しながら意見交換することの重要性を痛感した。
- ・ 国内係との連絡回数が増えた。
 - ・・・連絡回数が増えることで、両親にキャンプやキャンパーの情報を提供できた。
- ・ キャンプ中に、多くの写真や動画の撮影ができた。
 - ・・・キャンプ後、多くの人にキャンプを知ってもらうため、写真や動画を活用したい。
- ・ 中国人キャンパーに交通費をカンパできた。

改善点

- ・ 両替するお金が少なかった。
 - ・・・3万円両替をし、1万5千円を全体会計にまわせばいいのではないか。
- ・ イベントの計画倒れが多かった。
 - ・・・準備不足、人数不足が原因である。かつ、企画数自体が多すぎた。
- ・ キャンプ中の仕事分担を考えるべきだった。
 - ・・・リーダーの負担が多かったため、他のキャンパーに仕事をうまく分担すべきだ。
- ・ 貴重品（カメラも含む）の管理が徹底されていなかった。
- ・ 細かいお金、1元などを用意しておくべきだった。
 - ・・・バス代に1元がつかわれるため
- ・ 現地のキャンパーに頼ることなく、現地まで行く選択肢も考えるべきだと思った。
 - ・・・現地のキャンパーの負担を少しでも減らしたいという思いがある。
- ・ 航空券について、もっと詳しく調べておくべきだった。
 - ・・・荷物の重量オーバーで、超過料金がとられた。
- ・ キャンプ参加のための親の承諾を、ミーティングを始める前に得ておくべきだった。
- ・ 途中で不参加になるとみんなに迷惑がかかる。

キャンパー紹介



ぴっちゃん

本名・高橋千秋。FIじゃみんなぴっちゃんって呼んでるけど、中国では千秋の中国読みでちえんちよーって呼ばれてます。初めて会った子ともすぐ仲良くなるし、中国語話せないのに村人ともコミュニケーション取れちゃう。よく村人や中国人キャンパーに変な日本語教えたり、一緒にゲームしようって持ちかけたりしてる。キャンプ中いつも場の雰囲気明るくして、周りにいる人を笑顔にしてくれました。(by のんの)

のんの

中国人が思わずシャイになってしまうような美貌で、モテモテでした(笑) 普段は冷静沈着で、自分の意見をしっかり持っており、頼れる存在と思いきや…?!お酒を飲んだらデレデレになってはじけていました(笑) とにかく顔が広い! スーアン村のFIWC 東海のキャンパーとも友達で、すぐに打ち解けることができました。たくさん写真を撮ってくれたり、細かく日記を書いたり…記録向きの性格だと思います。そのおかげで記録はバッチリです☆ (by ぴっちゃん)



ゆうしろ

キャンプに参加できないってわかってからも全部のMTGに参加してくれて、ずっと一緒にチャイナキャンプのこと考えてくれたゆうしろ。キャンプ出発前にぴっちゃんとのののに内緒でアルバム作ってて、出発直前に渡してくれたのには本当に泣きそうになりました。そんないいところもあるけど変態。うん。ちなみにゴルゴよりもケンシロウよりもゆうしろの方が身長高いらしいよ。(by のんの)

ももちゃん

国内係として保護者に近況を報告してくれました。2012年度のチャイナキャンプリーダー。頼れるお母さんの存在で、今回のキャンプを作る際にもいろいろアドバイスをくれました! チャイナキャンプの頭脳でもあるももちゃんは、分かり易いメールで保護者を安心させてくれました。ももちゃんのことを知っている中国人が、七福神らしき置物を見て「oh, momoko!」と言っていたのが印象的です(笑) 中国人にも慕われる、そんな存在です。by ぴっちゃん



↑ 2012年夏のチャイナキャンプ

感想

今回のキャンプは、私にとってチャイナキャンプがどういう意味を持つのかを、見つめなおすキャンプでした。キャンプを計画しているとき、私にとっては衝撃的な問題が立ちはだかりました。過去3回ずっと行き続けてきたハンチョン村に、行くことができない可能性があったのです。その事実が突き付けられたとき、自分にとってハンチョン村がどれほど大事でどれほど大きい存在になっているのかに気づきました。あの優しい笑顔に、あの元気な声に会えないのにキャンプに行く意味はあるのか…。何度も同じ村を訪れる間に、私の中で「チャイナキャンプ」は「ハンチョン村キャンプ」へと姿を変えていたのです。たとえ建設ワークがなくても、彼らに会えるならハンチョンへ行きたい。それが私の素直な気持ちでした。

また、のんのと一緒にキャンプをしたことで、いろいろなことに気づくことができました。のんのにできて、私にできないこと。私にできて、のんのにできないこと。私が見てきたチャイナキャンプは、のんのが見てきたチャイナキャンプとは違うことに気づきました。

これらのことがあって、私は改めて何故チャイナに行くのかを考えました。今私がチャイナに行きたいと思うのは、チャイナにいる人々に会いたいと思うからです。ハンチョンの村人に会いたい。桂林キャンパーに会いたい。そこにつながりがあるから、また行きたいと思うのです。チャイナキャンプの魅力はやはりそこにあると思います。そして、私はチャイナキャンプのリーダーとして、キャンプに参加してくれた人たち全員に、その魅力を知ってもらいたい。そのために私ができることは、new camperがつながりを築くきっかけを作ることだと思います。私今まで感じたことを彼らもまた感じてくれるように…。

さらに、今回のキャンプで自分の成長を感じることができました。2年前まで飛行機なんて乗ったことが無かった私が、国際線・国内線の手配をして、無事移動できた。このことは自分にとって大きな前進でした。他にも、中国人と英語で話すことにも大分慣れました。自分が言いたいことをなんとか伝えられる場面が多かったです。のんのおかげで、中国語もたくさん覚えめました。私にとってこれらは副賞のようなものですが、このような成長ができたことは誇らしいです。

最後に、チャイナキャンプに行って毎回感じることを今回もまた強く感じました。日本で勉強やバイト、サークルに追われ忙しい日々を過ごしていると、つい忘れてしまうことがあります。それは、つながりの大切さです。自分にとって大切なつながりは何なのか、今やっていることはそれを犠牲にしてまでやるべきことなのか。自分の周りのつながりを見直す機会が、チャイナキャンプであるように思います。今回は、キャンプを作るうえでFIの先輩方やFI東海のよしみさん、そしてのんのとゆうしろうにたくさん助けられました。このような、今まで気づかなかった大切なつながりにも気づくことができました。そこで気づけた大切なつながりを、大切にすることができる人間になりたいです。



チャイナリーダー 高橋千秋（ぴっちゃん）

今回のキャンプに参加を決めたのは募集締切日より後で、それは参加を迷っていたからじゃなくて、締め切りを過ぎててもキャンプ参加者がいないということを知ったからだった。またいつか参加しようと思っていたチャイナキャンプ、ここで途絶えてしまうのは嫌だったのと、春休みまだ予定決まっていなかったので参加を決めた。今回のキャンプのキャンパーは、リーダーのぴっちゃん、フィリピンキャンプの応募に漏れたゆうしろと、もともと参加しないつもりだった私の3人。この3人で作り上げるキャンプが、私にとってこんなに特別なものになるなんて、最初はまったく思っていなかった。

行き先・内容が決められていた夏キャンプと違って、ゼロからスタートできる春キャンプ。たくさん重ねたミーティング。ハンチョン村に行き続けているぴっちゃんとワークキャンプ未経験のゆうしろ、それぞれのチャイナキャンプへの思い。何のためにキャンプがしたいのか。どんなキャンプがしたいのか。考えて共有した。ぴっちゃんとゆうしろと私、みんなそれぞれが違う思いだった。きっと何人キャンパーがいたって、みんな違う思いを持つだろうけれど、たった3人だったからこそ、毎回のミーティングでそれぞれの思いを深く感じられた。

中国。桂林に着いて、夏キャンプを共にしたJIAのキャンパーに会った。ハンチョン村に着いて、村人に会った。JIAのキャンパーも村人も、私のことを覚えていてくれて、名前を呼んでくれて、笑ってくれた。彼らがそこにいることがなぜか不思議だった。そのとき気付いたことは、前回中国から帰ってきたとき、私は中国での生活を現実と切り離して考えていたのだということだった。実際には、私が知らない間にも彼らは彼らの毎日を過ごしていた。そんな当たり前のことにさえ、今回中国に行かなければきちんと気付かなかったのだと思う。また、前回より少しだけわかるようになっていた中国語で、ほんの少しだけ村人と話すことができた。間に中国人キャンパーを介さずに直接聞く彼らの言葉は、大した内容ではなくてもすごく心に響いた。もっと言葉がわかるようになって、彼らと話をしてみたい、そう思った。

2回目に行った中国は、1回目よりもずっとずっと楽しくて面白かった。ワークもワークに向けた下見もなかった今回の訪問を楽しむことができたのは、今回たくさんの人の思いに触れて、ワークキャンプに対する考え方が変わったからだと思う。今の私は、村人や中国人キャンパーと一緒に過ごすことがキャンプで何より楽しいと思うようになった。ぴっちゃんが何度だってハンチョン村に行きたいと思う気持ちが少しだけわかったような気がした。つながりを持ってたハンチョン村の人々と、桂林のキャンパーと、また会いたい。

最後に、ぴっちゃんとゆうしろ。ずっと迷惑かけっぱなしだった私を支えてくれてありがとう。大好きだ――



武田まり乃（のんの）

初めてキャンプに行ける、ただそう思うだけでいろいろな感情がこみ上げてきました。リーダーのぴっちゃんから、正式にキャンパーに任命された時のことです。ひよっとしたきっかけで、チャイナキャンパーを志願した私。正直どこの国でも良かったのです。ただ海外に行ってボランティアがしたい、という一心で FIWC 九州に入り、チャイナキャンプに関わり始めました。



ミーティングを重ねていくうちに、徐々にキャンプが形作られていく。ミーティングの後、毎回すごいことをしているのだなと、感じていました。初めてのキャンプということもあり、ぴっちゃんやのんのに頼っている部分は多かったかもしれませんが、キャンパーの一員として少しでもチャイナキャンプに携われることが幸せでした。

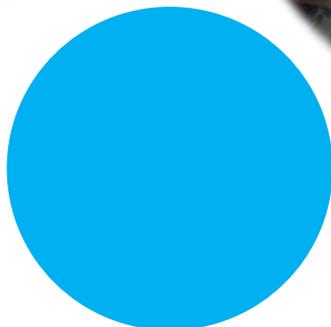
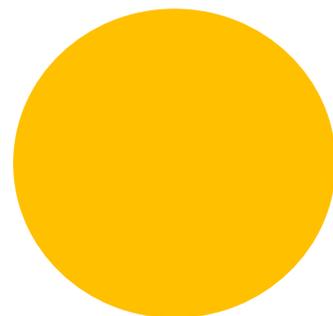
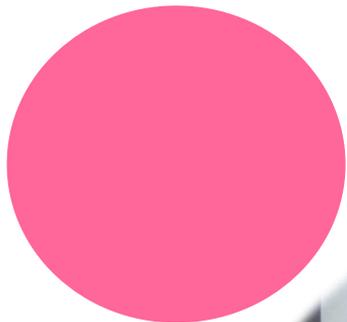
しかし、そんな中、私は親の承諾を得られず、結果としてキャンプに行くことをあきらめざるを得ませんでした。親の承諾を得られない以上、キャンプに行くことはできません。キャンプに行くことが出来ないのなら、私はミーティングに参加する意味がないのではないかと、悩みました。それでもぴっちゃんやのんのが最後まで一緒にミーティングをやろうと言ってくれました。そんな二人の言葉に救われ、私はミーティングに参加し続けました。そして一つ決心したことがありました。「俺は、ぴっちゃんとのんの、二人にとって最高のキャンプになるようにできることをやろう」と。現地に行って村人に会えない私の分まで、二人には中国で最高のキャンプを作ってきてほしい。そんな思いを常に持ち続け、ミーティングに参加しました。

出発前夜、自分が何か二人に出来ることはないかと考えていました。そうだ、村人のために作ったアルバムをぴっちゃん、のんののためにも作ってあげよう。思ったのも束の間、すぐ材料を買いにいき、徹夜でキャンプを作り上げるまでの軌跡をアルバムにまとめました。出発当日、自分の思いとともに、二人にアルバムを渡しました。二人が喜んでくれた顔を見て、私も幸せになりました。

報告書を書いている今も、本当にぴっちゃん、のんののことを尊敬しています。そして二人にとって、このキャンプが最高のものであったなら、私は今回のチャイナキャンプに携わって本当に良かったと心から思うことが出来ます。

最後に、ぴっちゃん、のんの、本当にお疲れさま。そしてありがとう。

小松勇史朗（ゆうしろう）



参加メンバー

- 高橋千秋 九州大学法学部 2年
- 武田まり乃 西南学院大学文学部 1年
- 小松勇史朗 九州大学医学部 1年

FIWC 九州

(フレンズ国際ワークキャンプ)

- 【Mail】 fiwcq@hotmail.com
- 【FB】 <http://facebook.com/fiwcq>
- 【HP】 <http://fiwckyushu.web.fc2.com/>
- 【Twitter】 <http://twitter.com/fiwckyushu>